



# 新潟支部会報

一般社団法人 大学女性協会新潟支部  
2026年3月 No.16

## 目次

支部奨学賞授与式開催報告	1～4 頁	支部の動き	8 頁
支部国際奨学賞	4 頁	お知らせ	8 頁
J AUW全国セミナー 報告	5～7 頁		

## 支部奨学賞授与式 開催報告

(一社)大学女性協会新潟支部  
第76回 奨学賞授与式  
2025年11月29日(土)  
会場 ホテルサンルート新潟 芙蓉の間

- |              |                        |
|--------------|------------------------|
| 次第           | 司会 鈴木裕美                |
| 1 開会         |                        |
| 2 奨学賞授与      |                        |
| 3 支部長挨拶      | 五十嵐由利子                 |
| 4 受賞者スピーチ    |                        |
| 5 祝辞         | 西村智奈美、高橋令子<br>(いずれも会員) |
| 6 会員からの贈ることば |                        |
| 7 閉会         |                        |
| 8 写真撮影       |                        |

ご臨席 新潟大学 佐藤拓一 先生

終了後同館「レストラン ポルトファーロ」にて懇親昼食会を開催

## 受賞者

河内 美帆 さん  
新潟大学大学院 保健学研究科 博士後期課程 3年

塚田 麗美 さん  
上越教育大学大学院 学校教育研究科 専門職学位課程 2年



ごあいさつ ～第76回新潟支部奨学賞授与式開催にあたり～

支部長 五十嵐 由利子

一般社団法人大学女性協会は終戦直後の1946年、社会教育のボランティア団体として東京で発足しました。大学婦人協会、その後、大学女性協会と名称変更を経て、79年間活動を続け、来年80周年を迎えます。そして、ジュネーブに本部を置く国際NGO、大卒女性インターナショナルの会員でもあります。

さて、私も新潟支部は、本部創立翌年の1947年に結成されました。支部奨学賞はその3年後、1950年に第1回目の授与式が開催され、それ以来、当支部の主要事業のひとつとして今日まで継続し、本年までに989名の新潟の女子学生に賞を贈り続けることができたことは、何にも代えがたい喜びです。

ここからは本年受賞のお二人についてご紹介いたします。

河内美帆さんは新潟大学大学院で、各種飲料物の安全な保管に関して、分子生物学的解析の手法を用いた研究を行っています。学会での発表にも精力的に取り組み、賞も複数、受賞されています。今回の論文では、報道における「男性ばかりの集合写真」に着目し、アンコンシャス・バイアスの現状を論じ、河内さん自身が研究以外に取り組んでいる「ジェンダーダイバーシティ推進応援プロジェクト」を例に、女性同士のネットワークの構築と情報共有の大切さを述べられました。河内さんには、研究の推進は勿論ですが、若い人達とのネットワーク作りを進め、身近な視点からジェンダー平等社会の実現に向けた活動も継続されることを期待したいと思います。



塚田麗美さんは中学校の教員でいらっしゃいますが、新潟県の現職派遣制度により上越教育大学大学院で、英語教育の実践について研究を進めています。今回の論文では、子育て中の教員の現状に着目し、制度上は他業種に比べて男女の平等性はあるものの、現状の困難な状況を自身の経験を通して論じ、教員の職務環境、ジェンダー平等社会に向けた教育現場のあり方を述べられました。塚田さんは現職教員で、現場では管理的立場で仕事をされることも多いかと思います。子育て中の教員への支援策の提案や、多感な中学生のロールモデルとしても期待したいと思います。

私事ですが、河内さんの男性ばかりの集合写真から、若いころの県や市の審議会で女性が私一人のことが多く、何とかならないかと担当者に話したことを思い出しながら読みました。塚田さんの論文からは、私も子育て中の様々な困難な状況を振り返り、そのことが新潟大学副学長の時の女性研究者支援室設立のきっかけでもあったことを思い出しながら読みました。

さて、毎年、ジェンダーギャップ指数が発表されますが、ご存じのように日本は148か国中118位と低い状況です。ただ、分野別で見ると、教育に関しては60位で、識字率と中等教育就学率は1位です。でも、高等教育就学率は112位です。このことは、卒業後の女性の活躍の場、特に指導的・管理的立場において男女で差が生まれる要因の一つではないかと思います。大学で、女性教員限定の公募や理系学部での女性限定募集が多くの大学で始まったことから、112位から順位が上がることを期待したいと思います。また、男女共同参画を進める企業へ国や県などが支援する取り組みも進んできています。このように社会の各所で多くの方が努力を重ねて取り組まれた成果ではありますが、私どもの活動もその一端となったことを自負し、それを励みに学びを深め活動を続けて行きたいと思っています。



この賞を支えご尽力いただいた多くの皆様に厚く御礼を申し上げ、主催者から一言のご挨拶いたします。

### 祝 辞 の か お ぶ れ



西村智奈美 会員



高橋令子 会員



佐藤拓一 教授

### 受賞者を囲んで



懇親昼食会 乾杯発声は鈴木裕美副支部長

## 受賞者論文要旨『ジェンダー平等社会実現のためにすべきこと』

### 『女性の自立:大学院において女性が活躍できる進路を考える』

河内 美帆

新潟大学大学院 保健学研究科 博士後期課程 保健学専攻 3 年

「ジェンダー平等社会実現のためにすべきこと」として、まずその取り組みの現状を知ることの大切さを、報道における「男性ばかりの集合写真」を例に挙げ、社会に流布する無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)の現状について論じた。次に筆者が所属研究室において取り組んでいる「ジェンダーダイバーシティ推進応援プロジェクト」を例に挙げ、女性同士が互いに結び付き、連携・協調・協力するというネットワーク(キャリアパス、ワーク・ライフ・バランスの情報共有など)を組むことの大切さを論じた。まず女性の仲間を増やし、それによって女性も働きやすい社会的環境の構築・充実に発展・結び付いていく、という好循環が生じることを期待したい。



#### 【河内美帆さん自己紹介】

今回の小論文では、ジェンダー平等社会実現のためにすべきこと、特に女性の自立、大学院において女性が活躍できる進路をテーマに執筆いたしました。きっかけは、日々の生活や報道の中で、集合写真が男性ばかりであるなど無意識の偏見を感じるが多かったためです。研究室ではジェンダーダイバーシティ推進応援プロジェクトに取り組んでおり、先輩女性研究者達から研究と家庭、キャリアの両立について率直な意見を伺うことができ、進路を考えるようになりました。プロジェクトを通じて後輩の学生や関心を持つ人が増え、こうした繋がり積み重ねが環境を変えていく力になると信じます。ジェンダー平等についての理解を深め、誰もが安心して挑戦できる環境作りに貢献していきたいと思ひます。

### 『子育て中の教員の現状と課題』

塚田 麗美

上越教育大学大学院 学校教育研究科 専門職学位課程 教育実践高度化専攻 2 年

制度上は男女平等がうたわれている教員の職務環境だが、育児期にはさまざまな課題が山積している。妊娠・育休時の困難、復職後の過重労働が女性のキャリア形成に影響している。男性教員の育児参画も進む一方で、講師不足や職場文化の壁がある。こうした現状から、多様な教員が協同し支え合える柔軟な勤務体制の構築が急務だ。教員のウェルビーイングを高めることで教育の質を向上させ、ジェンダー平等社会と持続可能な教育環境の実現を目指す。キーワード:教職と育児の両立 キャリア形成 働き方改革 多様性 ウェルビーイング

#### 【塚田麗美さん自己紹介】

私は昨年度から新潟県の現職派遣による上越教育大学大学院で学び直しの機会を頂いております。専門は英語教育で、英語の分野での研究はもちろん、私自身が 20 年以上の教職経験の中で感じてきた思いを俯瞰してみることで再構築して考えることができました。

いろいろな制度に支えられながら二人の子育てをしてきましたが、産休間近の同僚は代わりの臨時講師が見つからない等、現状は厳しく社会の状況を変えたいという思いが執筆の動機になりました。4 月からは学校現場に戻るのですが、残された時間で学べることを貪欲に吸収し、学校現場に戻った時に生徒、同僚、保護者、地域の方々方にそれを還元できるよう、もう半年の大学院での学びを深めたいと思ひます。



## 祝 辞

西村 智奈美 会員

ご受賞、誠にありがとうございます。心からお祝いを申し上げます。お二人の素晴らしいスピーチをお聴きして、大学女性協会がこの奨学賞を続けてきた意味は、この奨学賞で次の時代を作ってくださる方々とお目にかかるためだと改めて思いました。さきほど五十嵐支部長から教育分野のジェンダー指数のお話がありました。日本では健康分野では世界1位2位のジェンダー平等が達成できていますが、経済分野と政治分野が低く、この 2 つは働き方の格差とも言えます。私は今、衆議院議員として国会で仕事をしていますが、お二人がジェンダー平等の視点でおかしいなど気付いたことは、国会にいても感じています。これらは法律や制度で見直していく問題でもあり、お二人のような研究者や教育者が十分な力を発揮していただくために、私の立場で何ができるのかを日々感じながら努力、活動しています。お二人はこれから悩むこともいろいろあるかと思いますが、大学女性協会の先輩方はこの社会の中でいろいろ悩み、そして考え、しかしなおかつ行動して下さっている先輩方です。ぜひ同じ気持ちでこれからも歩いていけたらと思っておりますので、どうぞ存分にご活躍いただきたいという心からのエールを送らせていただきます。

高橋 令子 会員

本日奨学賞を受賞されたお二人にお祝いを申し上げます。誠にありがとうございます。論文を読ませていただきましたが、ご自身の経験に基づいて論理的にまとめられた小論文、とても感銘を受けました。

私は、2015 年から 4 年間新潟支部の支部長を務めました。その間にこの奨学賞の受賞者の OG の方から卒業後に連絡を頂いたことがございます。社会人になってから、女性の生き難さを身を持って感じるようになった、あの時論文を書いたことで、深くジェンダー平等社会について考える機会を持ったことはとても有意義だった、とのお手紙をいただき、この事業の持つ意義を感じる事となりました。皆さんも、社会に出てからこの論文を書いた意味をさらに感じて頂く事になれば幸いです。そして、その時には私達にご連絡いただければ、私達も励みになることでしょう。

私は若い頃に東京でアナウンサーをしていた経歴があり、それを生かして、今はコミュニケーションの講座をもっています。その講義の内容の中から、一つ今日のはなむけにコミュニケーションの秘訣をお話ししようと思います。それは、ポジティブシンキング+ポジティブ・ワードです。社会に出ると、いろいろな人のお付き合いが始まります。時にはその合わない人が上司だったりしますが、だからといって付き合い合わない訳にはいきません。そんな時は、その人の良い面を考える事です。だらしのない人でなく、細かいことにこだわらない人。決断力がないでなく、慎重な人、という風にです。そして、どうしても我慢できないことがあったら、アサーティブに話すこと。それは、相手を攻撃するのではなく、丁寧に説明して自分の気持ちや感情を冷静に相手に伝える事です。少し訓練が必要ですが、そういう技術があるということをお伝えしておきたいと思います。いつか、それを必要とすることがあるかもしれません。

社会の荒波に負けず、皆さんの道を明るく健やかに進んで行かれますようお祈りして、今日のお祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

### 新潟支部国際奨学賞 (ベトナム奨学賞)

ギエム・ティ・チャ・ミ さん

(ホーチミン市文化大 多文化管理専攻)  
2024~2028 年度授与

ドゥアン ティ カン リン さん

(ベトナム国家情報科学大学 UIT  
コンピュータネットワーク & データ専攻)  
2023~2025 年度授与

新潟国際ボランティアセンター (NVC) を通じ、昨年度に引き続き上記のお二人を支援します。3月7日ベトナム・ホーチミン市にて、授与式が催行されました。

佐藤拓一様 (賛助会員)

新潟大学大学院保健学研究科 教授

おめでとうございます。私が学生の指導にあたる保健学研究科は女性教員がとても多いためか、河内さんが論文で指摘した、男性ばかりの集合写真を改めて見なおして軽い衝撃を受けたところ。新潟大学のダイバーシティ推進室は五十嵐支部長が本学の副学長の時にスタートしたプロジェクトで、女性の自立という目標に私も共感しています。本日ここでみなさんのお話を伺い、私もさまざまな視点について気付いたり考えたりして指導に活かしたいと実感しています。受賞者のスピーチは本当に立派で、お二人の豊かなキャリアも念頭に、とても安心いたしました。

(佐藤様は受賞者河内美帆さんの指導教授としてご臨席)

## 2025 年度 JAUW 全国セミナー「ウェルビーイングと環境～くらしの視点から～」

新潟支部課題報告「コメ 産地からの視点で調べたこと」

社会学習部 大淵 智絵

### 【JAUW 全国セミナーについて】

一般社団法人大学女性協会(JAUW)全国セミナーは、「太平洋地域セミナー」などの実績を経て、1981年に文部省の国庫補助事業として開始されました。現代社会が直面する課題(教育、環境、女性の社会参加など)をテーマに、会員の研鑽と社会への提言を行うことを目的に、2004年まで文部省の補助を受けて継続的に開催、その後はJAUWの独自事業として本部企画委員会の主導で運営、近年は全国セミナーとシンポジウムを隔年開催しています。2024年度は「ウェルビーイングと環境」をテーマにシンポジウムを開催。2025年度はその学びを深化させ、「ウェルビーイングと環境～くらしの視点から～」を大テーマに、複数の支部がそれぞれの課題報告を担う全国セミナーを開催。新潟支部は「コメ」に関する調査を担当し、調査と発表を行いました。

### 【参画の概略】

2025年 6月4日 新潟支部役員会にて、今年度全国セミナーへの参画を協議、決定

7月30日 第1回新潟支部学習会の開催(クロスパルにいがた)

「気候変動とコメ」について 講話

新潟県農業総合研究所所長・黒田智久 様 新潟県農地部農地建設課課長補佐・石川契雄 様

10月1日 第2回新潟支部学習会の開催(オンライン)

コメに関する国の施策について情報提供 衆議院議員 西村智奈美 会員

支部会員による「コメ」に関する意見交換

第1回目報告内容検討会

10月8日 第2回目報告内容検討会(オンライン)

10月18日 JAUW 全国セミナー (東京都千代田区 エッサム神田ホール)

課題報告 15分「コメ 産地からの視点で調べたこと」新潟支部 大淵智絵 会員

10月19日 JAUW 全国セミナー グループディスカッション

2026年3月 セミナー報告書を本部企画委員会の編集により発行



### 【調査と発表について】

#### ●第1回学習会「気候変動とコメ」について 講話

新潟県農業総合研究所の所長、黒田智久様より、「コメの価格形成」「稲作と高温の関わり」「高温耐性の高い品種の開発」などについてお話をいただきました。新潟県農地部の石川契雄様からは「農地と環境、国土保全」に関してお話をいただきました。田んぼを活用した河川氾濫の治水事業では、画像を用いた報告内容が会員の関心を集めました。田んぼダムの効果は全国セミナーの発表でも取り上げました。

私どもの全国セミナー発表に備えて、お二人の講師は多くの資料をご用意くださり、また、全国の会員に向けて報告を行うことについて「これを機にコメ作りの現場や田んぼのことに関心を持ってもらえたら」と、発表そして報告書作成までの数か月間にわたり、度々の原稿チェックなど手厚いバックアップをいただきました。

#### ●第2回学習会「国の施策から情報提供」「支部会員の意見交換」

① 衆議院議員でもある新潟支部会員の西村智奈美さんからは、次の観点から情報と資料の提供をいただきました。  
・令和のコメ騒動はなぜ起きたのか ・農水省が同じ轍を踏まないためにやっていること ・今年のコメ不足になるか  
・食糧・農業・農村基本計画…農水省は水田政策を見直そうとしている ・「日本型直接支払い」といわれる三つの交付金と、それぞれの問題点 ・「食農直接支払い」を考える ・価格は市場で、所得は政策で EUと日本の比較

②「コメ」に関して支部会員の意見交換

セミナーの大テーマである「くらしの視点から」にふさわしい、生活者の多様な意見を集めることができました。



7/30 学習会「気候変動とコメ」 専門家を招いて



10/1 学習会 国の政策、最新の動きについて

●セミナー発表 (スライドの一部を紹介します)

セミナー発表の詳しい内容は下記からもご覧になれます

●セミナー報告書 \*今後掲載予定  
<https://www.jauw.org/aboutus/seminar/archives/>

●新潟支部ウェブサイト  
<http://jauwniigata.blog.fc2.com>

【視点①コメ作り】 気候変動への対処  
 価格の高騰は温暖化のせいなのか？  
 気候変動の世で稲作の展望は

【視点②環境】 稲作と環境保全  
 農業と環境保全のジレンマ 稲作の場合  
 水田の環境保全機能とは

【視点③コメとウェルビーイング】  
 =持続可能な食糧供給  
 継続力・生産現場の課題と対策  
 コメ政策の過去・現在・未来

【視点①コメ作り】 気候変動への対処  
 価格の高騰は温暖化のせいなのか  
 新潟県農業総合研究所 所長 黒田智久さんの回答

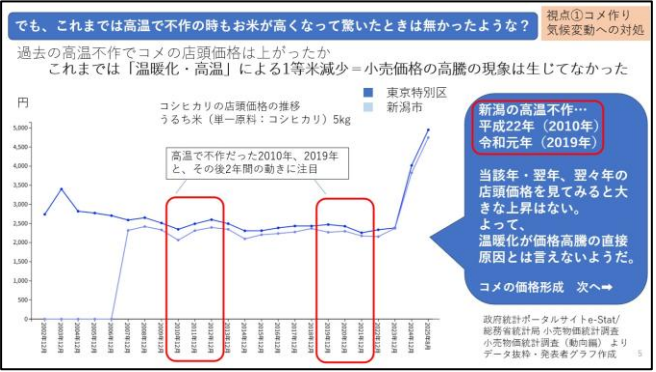
答1 「間接的に影響を与えています」  
 =例えば、1等級米の比率が低い年は8月の気温が高い、と言えこの品質の維持ができないと流通するコメの量が減少します。  
 (\*上位等級が少ないこと)

●「等級」は食味ランキングではなく、歩留まり=玄米から精米後に白米になる割合

答2 「これが価格上昇の原因の全てではなく、コメの価格形成には多くの要因があります」

答3 「そしてさまざまな対策・取り組みで温暖化に負けないコメ作りの努力は重ねられています」

予備知識  
 ●低温不作 1993(平成5)年  
 2003(平成15)年  
 ●高温不作 2010(平成23)年  
 2019(令和元)年  
 2023(令和5)年



2025年10月18日 JAUW全国セミナー  
 ウェルビーイングと環境〜くらしの視点から〜 課題 食料問題  
 「コメ 産地からの視点で調べたこと」 まとめ

(一社) 大学女性協会 大淵智絵 (新潟支部)

【視点① コメ作り】 気候変動への対処  
 ● 温暖化に負けないコメ作り技術は、努力と工夫、コスト次第で展望が開けている  
 ● コメの価格上昇は温暖化だけが原因ではなく、価格形成は複雑

【視点② 環境】 稲作と環境保全  
 ● 稲作は環境保全の機能も高く、国土保全にもつながる

【視点③ コメとウェルビーイング】 持続可能な食糧 (主食) 供給  
 ● 持続可能なコメ作りは、ウェルビーイングに直結する  
 ● 多面性を理解し、ギャップを埋める政策を

温暖化でのコメ作り  
 ○産地には作る技術はある安心してください  
 ▲コメの価格は今後の国策を注視  
 ▲産地の課題は作る人がいなくなること

「ウェルビーイングと環境」の視点で、産地や適正価格を考えてみては？

コメの価格高騰は気候変動以外の原因も大きく存在すること、気候変動による自然災害が発生する中で水田は環境保全に役立っていることに加え、未来に向けた生産地の努力工夫として、高温耐性を重視した品種開発、収量確保の品質管理技術、スマート農業といった希望有る展望を示しました。詳しくは報告書もご覧ください。

【発表を終えて】

コメの問題は歴史もあり、広い分野でプロが大勢いて多面的な「問題点」や「是」が存在します。食糧問題となれば世界規模と課題が大きく、安全保障にも関わること。この難しいテーマにどのような切り口で調査を始めるか、五十嵐支部長とともに頭を抱えましたが、「高い知性と広い見識を兼ね備えた会員の集まり」と自負しているであろう JAUW の個性、そしてこの課題を新潟支部に与えられた意義にふさわしい報告でありたいと臨みました。

取り組んでみると、農業・行政・研究の用語ひとつとっても私にとっては日常のものではなく、報告もその説明から必要になることが見込まれました。例えば「コメの相対(取引)価格は「あいたい」と読み、経済学の「相対価格(そうたいかかく)」とは別の概念です。また、「コメの品質・等級」とは「食味ランキングではなく、精米後にどれだけの量の白米になるか」のこと。そのようなスタートでしたが、県農業研究所の黒田所長には文言のひとつひとつから丁寧に指導いただい

たりと、ご多忙の業務の中でも大きなお力添えをいただき感謝の念に堪えません。

近年のコメの価格高騰が、今回「コメ」が課題の一つに選ばれた理由のようでした。調査では価格形成に高温以外の要因もあることを示し、ウェルビーイングと環境における「くらしの視点」として、フードセキュリティーや研究開発・生産・手元に届くサイクルの持続可能性にも注目を訴えることに納まりました。興味深いことに、札幌支部さんが担当された漁業の報告も同様の結論でした。「コメの品質は精米後の白米の量に繋がる」から始まった発表の後、「高い品質を追求した高級なお米よりも、味が悪くても安いお米を」といった意見がいくつも届きました。多くのかたにご協力いただいた調査報告を全国セミナーで十分に伝えられたか。会場の反応からは、発表者である私自身の力不足を痛感しました。

新潟支部 大淵智絵会員による  
全国セミナー会場での発表の様子



#### 【参加報告】

全国セミナー「ウェルビーイングと環境～くらしの視点から～」に参加して

高橋 令子

全国的に過去最高の気温を記録した夏が過ぎ、地球環境の異変を肌で感じながら迎えた秋であった。昨年から本部で取り組んでいる環境のテーマで、今年は新潟支部からも米についての報告をするので、興味深く拝聴した。オンラインで地元から参加できるのはありがたかった。

長谷川会長の挨拶の中で、昨年「環境」というテーマに取り組む時から、女性問題との整合性について議論があった、とのことである。それは私も前に考えたことがある。そして、環境と女性の問題は、社会の構造上の問題と深く関わっており源を一にするもの、と考えるに至った。効率と結果を優先する企業資本主義にとって、環境への配慮や、家事やケア労働を担っていた女性は邪魔者でしかなかった。それが「エコフェミニズム」という言葉で欧米を中心に研究されていることも知っていた。今回の 2 日目の特別講演で、萩原なつ子国立女性教育会館理事長の「エコフェミニズム～環境をジェンダー視点から捉える～」をお聞きする機会を得て、またとない学習の機会となり有意義だった。

萩原さんは自己紹介の中で、ご自身の生まれた 1956 年は熊本の水俣病がニュースになった、それまでの大量生産・大量消費社会の影響としての環境汚染が進行する世の中で、次世代の子ども達に平和で安全な環境を残したいという思いで研究者としての道を歩み始めたという。エコロジーを創始した女性として、米国のエレン・リチャード・スワロー (1842～1911 環境教育、消費者教育、家政学の母) をご紹介くださった。その言葉から「これからはエコロジーを私達の日常科学にしましょう。健康で幸福な生活がその上に打ち立てられるべき諸原理を教える最も価値ある科学にしようではありませんか。(1992 年 11 月命名式での挨拶より)」これが『スポック博士の育児書』のベースになったとのことである！萩原さんは気さくなお人柄、替え歌もお上手で「あなた節電してますか♪(北の宿から)」が耳に残っている。電通社員だった経歴から、宣伝の効果をよくわかっておられると感じた。

第 1 日目の支部からの報告は、それぞれの地域特有の暮らしの視点での学習・取組で、北海道は魚類、新潟は米など食生活の問題から、次世代エネルギー問題など幅広く、全国支部のある強みを感じた。

1995 年に北京で開催された世界女性会議で明記された重大問題領域のうち第 11 番「環境」が行動綱領に盛り込まれた。今年は 30 年目の節目を迎え、さらなる努力と行動力が求められる。さて、私達に何ができるか？



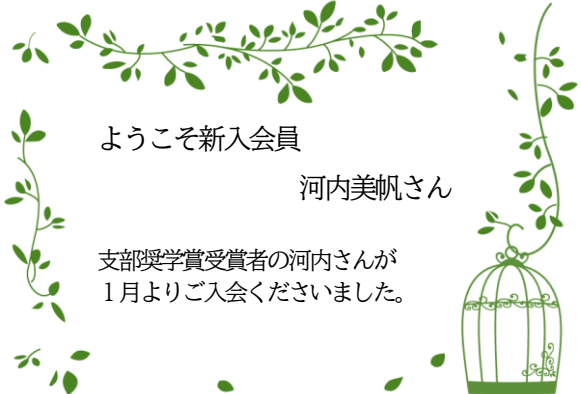
## 支部の動き 8月～2月 おもなもの

- 【8月】
- 8/7 EXPO2025「政治における女性たち」出席 (大淵)
  - 8/29 第3回役員会・運営会議
- 【9月】
- 9/1 国内奨学生応募者リストと応募書類を発送
  - 9/15 JAUW ウェブサイト新潟支部のページ更新
  - 9/19 80周年記念誌掲載用支部活動の写真を送付
  - 9/24 アルザフォーラム 2025 ポスター広報 (打越、大淵、西村)
  - 9/25 新潟支部奨学賞応募締切
- 【10月】
- 10/1 全国セミナーに向けて第2回学習会  
第1回支部担当発表内容検討会 (オンライン)
  - 10/8 全国セミナー支部担当発表内容  
第2回検討会 (オンライン)
  - 10/15 第4回役員会、運営会議 (ニコット)  
支部奨学賞選考ほか
  - 10/18・10/19 全国セミナー参加  
発表：大淵智絵会員  
オンライン参加：五十嵐、鈴木、高橋
  - 10/23 支部奨学賞応募者及び応募大学に選考結果通知
  - 10/30 支部奨学賞授与式 (11/29) 案内を支部会員へ

- 【11月】
- 11/1 本部HP「季節の便り」依頼原稿送付 (支部長・五十嵐)
  - 11/13 市内三施設に団体登録書類の提出
  - 11/16 本部HP「季節の便り」に、新潟支部から掲載
  - 11/20 本部からの「会員名簿の確認」への回答
  - 11/29 支部奨学賞授与式並びに懇親昼食会
  - 11/30 全国セミナー報告書 (最終版) 提出 (大淵)  
全国セミナーディスカッション報告書提出 (大淵)
- 【12月】
- 12/4 新入会員入会申込書を本部に送付
  - 12/5 支部奨学賞受賞者へ式典画像送付 (鈴木)
  - 12/9 国内奨学 OG の住所確認 (鈴木)
  - 12/21 支部会報記事作成 (井上、高橋)
- 【1月】
- 1/12 JAUW 会報 287 号  
「セミナーでの発表に向けての支部の取り組みについて」  
提出 (大淵)
- 【2月】
- 2/1 オンライン支部長会
  - 2/1 ベトナム奨学金 2 名分を送金
  - 2/5 第5回役員会、運営会議

## お知らせ

- 2026 年度 支部総会の開催について  
4月25日 (土) クロスパルにいがた 301 講座室  
第1部 情報交換  
「ワンランク上を目指す研究室～佐藤拓一研究室のとりくみ」  
第2部 総会議事  
\*返信はがきにて出席報告をお願いいたします。
- (一社) 大学女性協会 第15回定時会員総会・全国総会  
および80周年記念催し 5/16～18 会場：KKR ホテル東京
- アジア大学女性協会 (UWAsia) 東京大会 5/18～20



ようこそ新入会員  
河内美帆さん

支部奨学賞受賞者の河内さんが  
1月よりご入会くださいました。



JAUW 本部ホームページ  
本部発信、毎月15日に更新。最新情報は news ページからどうぞ  
<https://www.iauw.org/>



新潟支部のページ  
支部の最新情報、過去の支部資料もご覧になれます  
[https://www.jauw.org/works\\_category/nigata/](https://www.jauw.org/works_category/nigata/)

会報担当 (五十音順)  
大淵、三上、吉谷

新潟支部会報 No16  
(一社) 大学女性協会新潟支部  
支部長 五十嵐由利子  
<http://jauwniigata.blog.fc2.com/>  
発行日 2026 年 3 月 15 日

編集後記／大淵  
年度末のこの号を編集していると、五十嵐由利子支部長にご就任いただいた 2025 年度は、殊に充実の、殊に多忙の1年だったことをつくづく感じました。十分にやり切った満足感を携えながら、2026 年度からの新フェイズを迎えたいと思います。